

「稲盛塾長の三回忌を迎えて」

稲盛塾長の三回忌に際し、心より哀悼の意を表します。

塾長は、京セラやKDDIの創業者として、また日本航空の再建に尽力された経営者として、我々塾生のみならず、多くの人々に影響を与えました。塾長の経営哲学や人間性は、多くの経営者やビジネスパーソンにとっての指針となり続けています。塾長の遺された言葉や教えを胸に、その精神を受け継ぎ、これからも努力を続けていくことが、我々塾生の最大のご恩返しだと考えています。

日本の歴史を紐解くと、江戸時代中期から明治にかけて多くの私塾が生まれました。広瀬淡窓の咸宜園、シーボルトの鳴滝塾、緒方洪庵の適塾、吉田松陰の松下村塾、これら私塾はそれぞれの時代において重要な役割を果たして、多くのすぐれた人材を育ててきました。そして、時は流れ、昭和、平成、令和と中小企業経営者が中心となり、稲盛和夫を師と仰ぎ、盛和塾を経て、北大阪経営塾は今なお、亡き塾長の姿を思い浮かべながら、偉大なる師匠が残した書物や音声、映像を頼りに、混迷する現代社会を「一人の人間として社会をよりよく生きるために、そして経営者としてどうあるべきか」を求めつつ、日々学びを深めております。先人がその時代、時代にあらわれた偉人の考え方を頼りに歴史を切り開きバトンをつないできたように、北大阪塾生は更なる学びを深めながら、その学びを実践することで、世界がより良くなるためのインパクトを社会に与え続けていく、その第一歩が塾長の授けて下さった「全従業員の物心両面の幸福を追求する」ことにあると信じ、これからも同志と共にお互いを研鑽して参りますことを誓います。

令和6年8月26日

北大阪経営塾 代表世話人一同